

経営比較分析表（令和3年度決算）

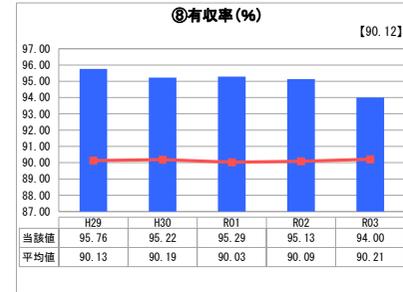
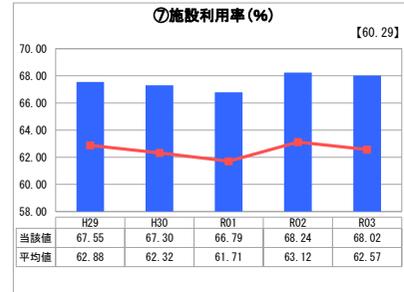
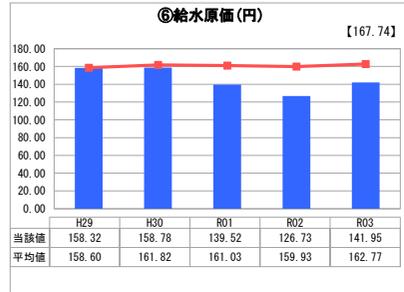
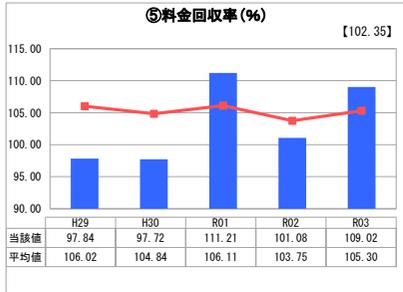
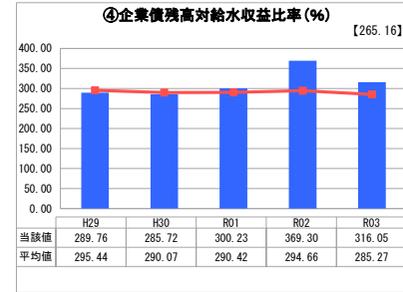
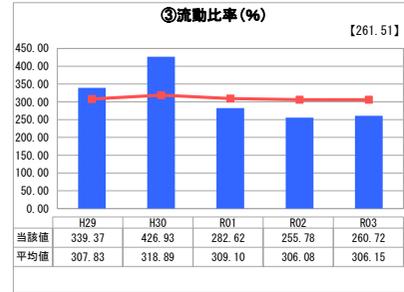
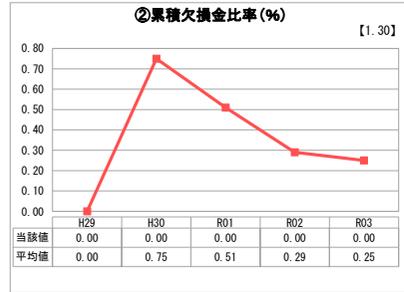
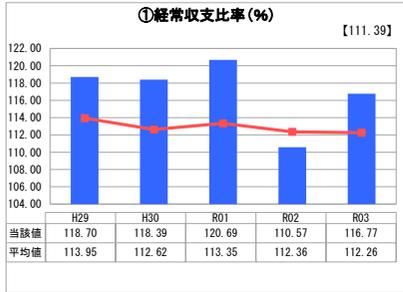
兵庫県 加古川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	64.98	96.65	2,486	

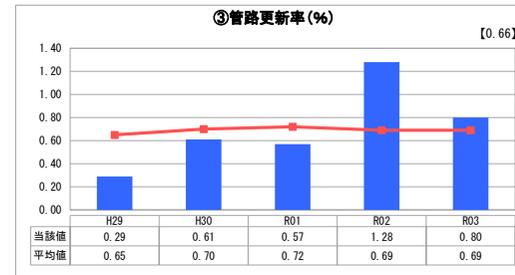
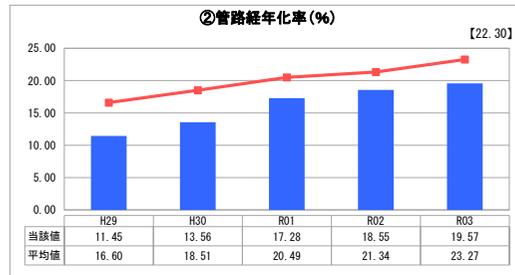
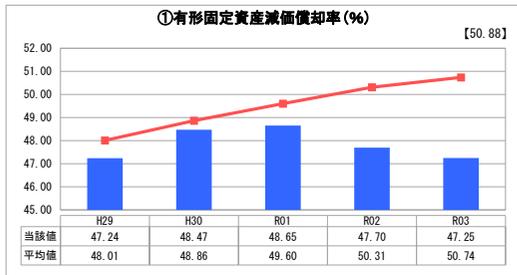
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
261,661	138.48	1,889.52
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
252,126	116.83	2,158.06

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率、③流動比率
令和2年度は新型コロナウイルス感染症の関係で水道料金の減免を実施したことによって数値が悪化していたが、令和3年度は減免を実施しなかったことから改善した。しかしながら、コロナ禍以前の水準には戻っていないこともあり、注視していく必要がある。
- ④企業債務高対給水収益比率
令和2年度は水道料金減免等の影響により、料金回収率、給水原価とも悪化していたが、令和3年度はそれらなく、特に水道料金の増加の影響が大きかったことから大きく改善した。
- ⑦施設利用率
令和2年度はコロナ禍の影響を受け給水量が増加したことにより数値は上昇(好転)したが、令和3年度は1日平均給水量の微減したことにより悪化した。今後は水需要(給水量)は減少していくことが予想されることから最適な施設規模や効率的な施設利用を考慮していく必要がある。
- ⑧有収率
漏水調査を積極的に取り組んでいることから、全国平均・類似団体平均と比べ高い水準を保持しているものの、令和2年度から3年度にかけて大きく悪化している。引き続き漏水調査を積極的に行い、今後も高い水準を維持していく。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
令和3年度は浄水、配水施設の大規模更新工事等の完了に伴い2年連続で数値が改善している。事業の進捗により年度間で差があるものの、施設等の老朽化が進み減価償却が進む傾向にあり、全国・類似平均の動向と同じく悪化していくことが予想される。
- ②管路経年率
全国・類似平均の動向と同じく更新を進めているものの耐用年数に達する管路が増加しており、悪化している。
- ③管路更新率
令和2年度は、複数年度にわたる工事が完成したことにより上昇したが、令和3年度は完成工事量の関係もあり悪化したものの全国・類似平均を上回っている状況である。今後は「老朽管更新(耐震化)計画」に基づき事業費の平準化を図りつつ管路更新を行っていく。

全体総括

令和2年度は水道料金減免実施により、一時的に悪化している指標もあったが、令和3年度はその影響がなくなったことにより概ね改善し、経営の健全性・効率性を示す指標については、良好な数値となっている。しかし、令和元年度以前の数値が示すように、水需要が減少傾向にあり、今後、収益が減少していくことが懸念される。

また、老朽化の状況を示す数値についても、事業の進捗により年度間で差があるものの、管路をはじめとする施設の老朽化が進んでいる。

このような中、平成30年度に策定した中長期的な財政計画である「アセットマネジメント」及び加古川市の水道事業の基本方針である「加古川市水道ビジョン2028」等に基づき、将来の水需要を踏まえた中長期的な視点での施設の計画的な更新と更新費用の平準化を行い、持続可能な水道事業の経営となるよう努めていく。